

沖縄防災環境学会シンポジウム

青山学院大学の沖縄先島における初めての発掘調査から40年

発掘調査が証す歴史津波の実態

1973年青山学院大学による発掘調査当初



2013年2月



沖縄県宮古島城辺友利・砂川元島における発掘調査、出土人骨と陶器、津波痕跡

3月16日[土]

開場・受付:13:00

13:30～17:00

聴講無料(定員300名)

【会場】

青山学院大学青山キャンパス
17号館309教室

【お問い合わせ先】

沖縄防災環境学会事務局
琉球大学工学部2号館403
098-895-8673

Email:enakaza@tec.u-ryukyu.ac.jp

研究発表

山田浩世(琉球大学島嶼防災研究センター)

古文書が伝える明和大津波

盛本勲(沖縄県教育庁文化財課)

発掘調査による明和大津波の実証

山本正昭(沖縄県教育庁文化財課)

遺跡にみる地震津波災害跡の様相

久貝弥嗣(宮古島市教育委員会)

無土器時代とグスク時代の複合遺跡
に現れた埋葬人骨と災害痕跡

仲座栄三(琉球大学島嶼防災研究センター)

考古学と自然科学の融合による
災害実態解明

コメンテーター

田村晃一(青山学院大学名誉教授)

手塚直樹(青山学院大学教授)

協賛 青山学院大学考古学研究室・琉球大学島嶼防災研究センター

後援 トヨタ財団研究助成プログラム